

おおの

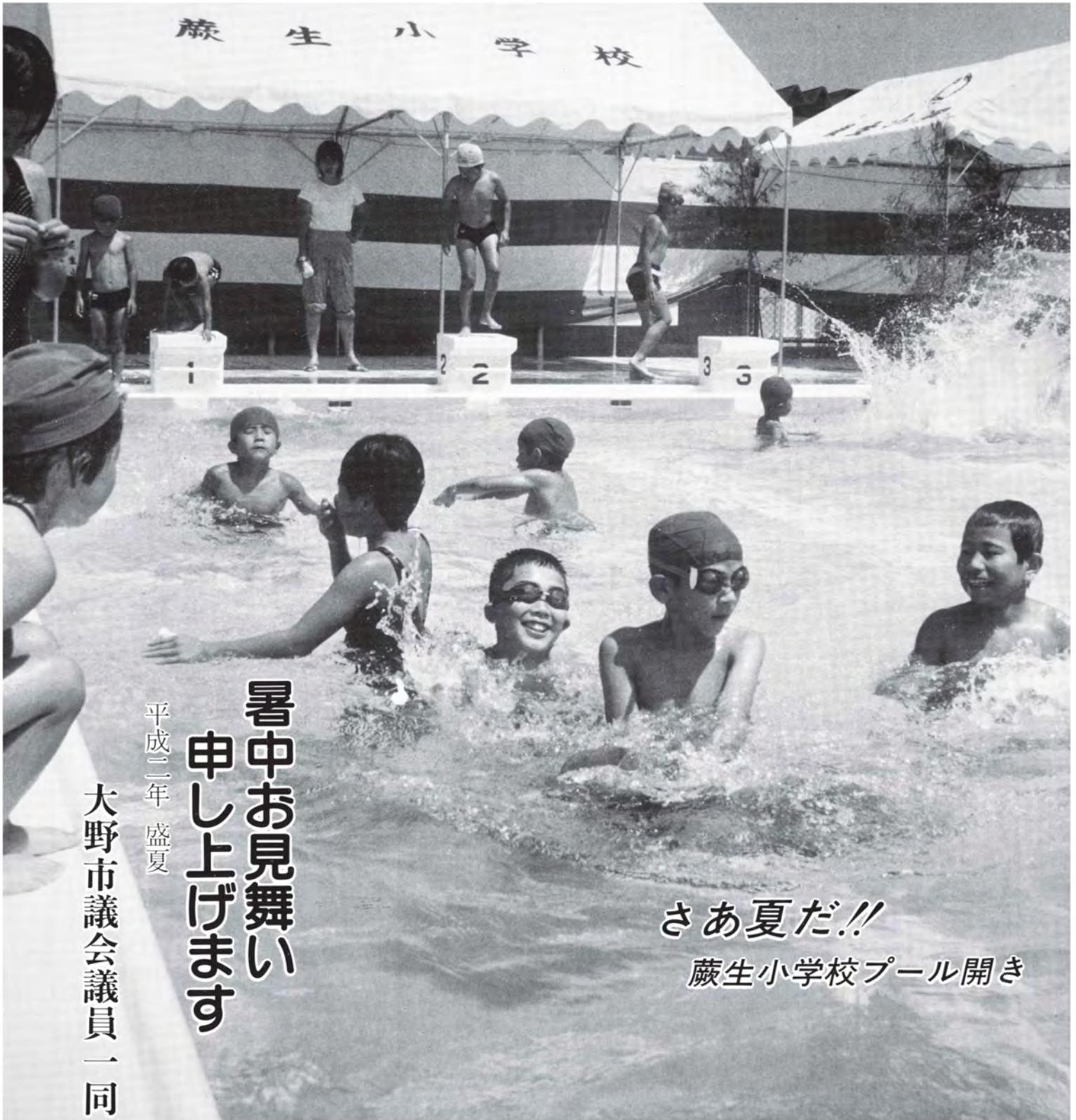
# 議会だより

No. 83

平成2年7月25日

発行

大野市議会事務局



暑中お見舞い  
申し上げます  
平成二年 盛夏

大野市議会議員一同

さあ夏だ!!

蕨生小学校プール開き

水と緑の保全のための「みどりの課」設置について

問 ①今や世界的な運動として、水と緑の保全について、市民一体の努力が始まっている。

当市も、「水と緑の環境保全協議会」や「みどりの課」を設置して、雨水浸透対策や緑地・湧水地区の保護に本腰を入れてはどうか。

②他市で採用を始めた雨水樹の奨励助成金制度についての考えはどうか。

③今や枯渇寸前の本願清水の保全対策はどうなっているのか。



イトヨの生息が心配される本願清水

策は当市のような降雪地帯、凍結をみるような自然環境の中では、あまり効果がなく、また、地下水の涵養源にも大した効果がないとの考え方であったが、今後、この問題について再検討したい。

③本願清水の枯渇は憂慮すべき現状とされている。今年は降雨量が例年になく少なく、積雪もほとんどなかったことも原因で、現在も湧水がない。

この地下水の湧水問題等も含めて、イトヨの保護については今後、検討を重ねて最善の努力をしていく。

職員の適正な配置と能力の開発について

問 行政マンの体質強化が、二十一世紀の飛躍の根底になる。

これまでの行政改革では職員を減らすことが先行し、行政のプロを育成する努力が欠けていたのではないか。

中核の部門までも、コンサルタントに委託する例が増えているが、各部門のエキスパートを育て、行政のプロを育成することが大切ではないか。

答 職員の適正配置・能力開発は誠に重要であるので、事務決裁規程を改正して、時宜に適切な権限委譲、責任体制の確立に

努めている。

また、広く職員に職務に関して、意欲と責任をもたせる観点からも、各種研修を実施したい。

職員はその道のプロであるとの認識に立って、各職種のエキスパートが育成されることを大きく期待している。

総合病院の建設について

問 ①病院建設認可申請を県へ提出している医誠会病院への対応について、どう考えるか。

②民間総合病院の誘致運動についてどう考えるか。

③今回の選挙戦で、「医師会の協力を得て百床以上の総合病院を、二年の中に誘致すること、政治生命をかけて取り組む。」と公約したが、ベッド百床以上は可能なのか。

④政治生命をかけるという意味は。

⑤総合病院とはどの病院か。

⑥着工時期は、いつごろを目途に考えているのか。

⑦最近、勝山病院を大野市近隣に移転させる話を聞くが、これについてどう考えるか。

答 ①この申請書は、大野保健所経由で県知事に提出されたもので、今、大野市としてどうこうするということはできない。

②市民運動として認める認めないという問題でなく、これは今後も続くだろうというところで理解している。

③今回の選挙における市民の強い期待等を踏まえ、医師会の温かい理解が得られるものと考えている。

④不転の決意で臨むということ、強い意気込みを示した。

⑤高度医療が図られること、それから信頼される病院であるということから、今まで取り組んできた済生会病院に絞って最善の努力をしていく。

⑥なるべく早い着工を目指して、尚一層努力する。

⑦正式に聞いていないので、コメントできない。

リゾートの経過と今後の進め方について

問 「奥越高原リゾート構想」の現在までの経過および今後の進め方について、また五つのクラスター(重点整備地区)のうち、当市の三つについて現況を報告願いたい。

答 平成元年五月二日に、国土庁へ「奥越高原リゾート構想」の基礎調査資料を提出し、関係六省庁のヒヤリングを受ける。

同年十二月二十七日に基礎調査結果の報告を受け、おおむね

人事案件

公平委員会委員の選任に同意

南 豊 氏 (74歳)  
(田野20-101)

妥当との通知を受理する。

平成二年三月七日、基本構想の承認申請書を提出する。

同年五月二十八日、国土庁長官より承認書が交付される。

以上が、今までの経過である。承認された重点整備地区として、市街地およびその周辺地区は「歴史都市」の形成を目指し六呂師高原地区を「星の降る里」銀杏峰および宝慶寺周辺地区は「修養の里」として形成することを開発テーマに掲げて、整備することとしている。

今後の進め方については、市開発協議会が中心となり、基本的な実施計画の作成と開発主体となる第三セクターの構築準備に入る予定である。

正式な計画が煮詰まった段階で、地元交渉を開始し、市民各位の合意が得られるよう努力したい。



**五万人都市を目指す施策  
や工業出荷額増進策に  
ついて**

問 当市では新規卒者の六五パーセントが市外へ流出している状況である。  
市民所得は県下でも低位で、工業の事業所数も少ない現状で、工業出荷額増進策は可能か。  
全国的に人手不足が深刻であるなかで、「第三次大野市基本構想」の中身はどれだけ実現の可能性があるか。  
答 これから迎える二十一世紀は何としても五万人都市達成を目標に進めるというのが第三次の基本構想である。  
そのためには、まず人口の流出を防ぐことが一番の急務であ

る。特に、若者をいかにして市内に定住させるかに併せて、市外に出ている若者をUターンさせる施策が極めて重要であり、当面する最大の課題である。  
今春の奥越四高校の新規卒業者のうち、地元就職者は三五パーセントという大変寂しい状況である。

就職について若者が望んでいるのは魅力ある企業であり、快適な職場環境・生活環境である。この望みに沿うには、工業団地を造成してこの要望に適合する企業誘致に積極的に取り組みとともに、スポーツ、レクリエーション、公園・緑地・商店街の整備など魅力あるまちづくりが、必要である。

これにより若者が定住し、人口が増えていく街になると思う。また、工業出荷額一千億円以上達成を目指す具体的な計画を今、職員の間で策定中である。

**水行政の発想の転換に  
ついて**

問 市長は、公約として上水道事業の推進を表明したが、上水道建設の前に、地下水を公共の財産として認識し、そのコスト負担のシステムを作るべきではないか。  
また、地下水の保全のために

涵養源の確保、地下水利用の合理的配分に力をいれるべきではないか。  
このことを基本として今後の水行政の転換を図ってどうか。

同時に、先進地視察や研究者を招いての学習会、また、市民への環境教育講座を開催してはどうか。

答 将来にわたって、地下水をホームポンプで飲み続けたいとよくいわれるが、地下水は降雨降雪等の気象条件に大きく左右され、涵養量の減少と使用量の増大という現象が広がってきている。

昨年末、市街地で発生した地下水の汚染や井戸枯れ等を将来において防ぎ通せるかどうか、疑問である。

地下水の保全は極めて大事であるが、水源が乏しく、涵養する水が大野市にないことも考えなければならぬ。

こうした状況から、将来、不測の事態が起きる可能性もあり得る。そのため、衛生的で安全な水を安定的に供給するためには、水道施設の設置は必要であり、また、近代的な文化生活の中では、上下水道による環境整備は欠かせないものと考ええる。

上水道については、行政の責任として計画立案をし、市民のコンセンサスを得て、実施できるところから行い、南部上水道

の二の舞を踏まないように、慎重に対応していきたい。

水問題については、専門学者を招いての学習会も三回開いており、住民の方々とは講座とか学習会等でいろんな解説をするなどの対応をしてくれている。

**今回の選挙を顧みて**

問 今回の選挙ほど恥ずかしく悲しい選挙は、いまだかつて経験したことがない。

地域・団体・組織にしばらくは選挙、運動期間中の狩り出し、締め付け、お願いの連呼、怪文

書、などについてどう思うか。  
また、これからの選挙には立会討論会を開催したらどうか。

答 今回の市長選挙は六名が立候補者するなど、これまでにな

い選挙となった。  
市民にどう影響するか大変心配したが、有権者各位がそれぞれ冷静に選挙を見極めて投票されたものと理解している。

立会演説会は、昭和五十八年の公職選挙法の改正により廃止された。

しかし、選挙民に候補者の主張を十分聞いてもらうために、可能な限り公共施設を個人演説会場とする方向で、検討を進めていく。

**請願・陳情審議結果**

番号	件名	提出者	結果
請願二号	地下水汚染に関する請願書	下庄地区区長 長谷川久	採択
陳情八号	市道の拡幅、橋梁の改良について	柿ヶ島区長 山村清治	継続審査
陳情九号	農業集落排水事業について	森政地区区長 鈴木利夫	採択
陳情十号	市道の編入について	中野二丁目区長 西田弘 外五名	採択
陳情十一号	市道の認定について	新庄区長 広作謙治	採択
陳情十二号	施設の改築による応分の援助について	大野和光園理事長 石蔵一郎	採択
陳情十三号	し尿浄化槽の入札なしにびに契約の見直しについて	北陸水質管理保障 代表取締役 中村雄次郎	不採択

**温泉掘削事業の  
進ちょく状況について**

問 リゾート関連で進められている、養道の「湯ノ谷」における温泉掘削の現状について報告願いたい。

答 昨年の十一月三十日に始動式を行い、約一千メートル掘る計画で進めている。

当初は元年度内に完成の予定で契約したが、工期延長に伴い、予算を本年度に繰り越した。

工期が遅れたのは、機械の処理、パイプの付け替え、湧水の処理等のため掘削不能の日が長

**市議会議員補欠選挙**

村西利栄氏(社会党)が当選  
(吉野町409・51歳)

6月17日執行の大野市長選挙と同時に行われた、市議会議員補欠選挙で村西利栄氏が当選しました。



村西議員

期にわたったのが原因である。

現在の深度は七百五十二メートルで、やっと温泉を探る地質の亀裂帯に到達した。

七百メートルで大体三十五度の温度で、これから一千メートルまでの間に温泉湧水があると期待をしている。

**各審議会委員の女性  
登用について**

問 女性の新しい感性を行政の中に生かすことが必要と考えるが、各種の審議会・委員会における女性の委嘱状況と今後の考え方を聞きたい。

答 現在、委嘱している各種審議会等の委員総数は八百四十八人で、そのうち女性は八十六人である。

特に、環境の保全等の問題は、女性の立場での意見・協力が重要となるので、今後の各種審議会委員の委嘱替えに当たっては、積極的に婦人の委嘱を行うよう努めたい。

**住民の行政参加について**

問 市民が行政の一部に参加することによって、自治意識も高まり、市政も円滑に進展すると

考える。

住民の行政参加について、基本的にはどう考えるか、また、その方策はどうか。

答 行政は財源的にも限度があるため、きれいな町、美しい町にするためには、住民の積極的参加が必要である。

あらゆる機会をとらえ、率直な話し合いのなかで協力を願いたい。今後は、特に女性の協力が得られるような住民参加の制度・方法を考えていきたい。

こうしたことに十分配慮してこれから市民挙げて行政に参加していただくというのが第三次基本構想での考え方である。

**上水道の財政負担と  
今後の対策について**

問 ①上水道会計の収入額および一般会計からの繰入額の累計は、いくらとなるか。

②今後も続くと思われる繰入金の方策はどうか。

③水資源の有効的な利用と下水道料金算定のためにも、メーターの取り付けを検討してはどうか。

答 ①昭和五十四年から平成元年までの収入累計額は二億七千五百八十三万五千五百五十五円、一般会計よりの繰入額は六億四千五百八十七万九千七百八十七円

である。

水の使用量は、五十四年当時と比べて、平成元年度には、総有水量が十万四千三百リッターと、約三・八倍となり、加入戸数も八百二十一戸で、百三十六戸増えている。

②現在までに一般会計より約七億円程度を補填してきているが、これは使用量が上がらず、料金収入が少ないため、今後加入促進や区域の拡大を図り、また、公共施設等にもできるだけ使用していく。

平成二年度の見通しは、鍛掛地区等が今年度から本格的な料金体制に入るので、一般会計からの持ち出し額は減少するものと思われる。

③メーター制は、地下水利用者から料金または協力を徴収することによって、地下水使用量を減少せよとするのが目的であり、節水という立場から効果が期待される。

しかし、法的には私権と公共の福祉との整合性の問題、また、条例化しても拘束力がなく、実効が伴わないので、メーター制を採ることは適当でないと思われる。

**廃品回収における助成  
について**

問 小・中学校のPTAや子供会が組織の活動経費に当てるため、廃品回収事業を年に何回か実施している。

こうした団体に対しても助成する考えはないか。

答 現在、空ビン回収については、協力地区や婦人会等に対し、キロ当たり四円の助成を行っている。

ゴミの資源化ということでは同じ活動なので、今後はこの空ビン回収助成制度とあわせて、古紙その他の回収についても助成措置を検討したい。



ゴミの資源化として必要な廃品回収

